幼い難民に未来を……CYRニュース　第4号

幼い難民を考える会事務所：〒150東京都渋谷区広尾4-3-1 ☎03-499-1226 普通預金口座：第一勧銀広尾057-1280817

今、キャンプでは

"保育の手引き"完成間近!!

昨年の秋から、カオイダンと、カオイダンからマイルートへ移った保育者たち、日本に定住した元希望の家の保母さんなどの手によって進められていた"保育の手引"(A GUIDE TO TEACHERS OF YOUNG CHILDREN)が印刷される運びとなりました。カンボジア語のこの教科書は、タイの難民キャンプで貴重な指導書となり、彼らが自分達で保育者をトレーニングしていくことを可能にしました。また、彼らが祖国へ帰っても保育の大きな手助けとなるにちがいありません。一方、この"保育の手引"と同時に、家庭での子どもの健全な発達を促し、成長を見守っていく父親、母親のための手引きも作られています。尚、これらの教科書を作る事業は、ユネスコとUNHCR(国連難民高等弁務官事務所)の要請により、ユネスコに集められた難民救援資金によって成されました。また、他の難民救援団体の保育担当者達からも、この"保育の手引"を英訳してほしいという要望が出され、翻訳作業は、すでにカンボジアの英語が良く出きる人達によって自主的に始められています。

また、8月16日には、カオイダン・キャンプのEDC(Education Development Center)主催の講演会がカオイダン・キャンプで行われました。希望の家の保母のキム・フーンが、保育の重要性、実際的な保育活動について話しました。この日、キャンプの保育園の先生、小学校の先生、各セクションのリーダーなど、200名余りの人々が出席し、熱心に聞きいっていました。

CYRのこのような活動は、UNHCRをはじめ、他団体からも高く評価されており、ユネスコやユニセフから、保育のコンサルタントとして、タイ、フィリピン、スリランカ、バングラデシュなどへの協力依頼がきています。

グッズ・システム開始!

今まで現金(1人1日10バーツ：約100円)で支払われていたキャンプ内のカンボジア人への給料が、8月1日より品物で支払われることになりました。これは、キャンプとキャンプ周辺の闇市での現金の流通をなくそうというものです。この制度によって、仕事のある人でも、現金収入の道が閉ざされてしまったわけです。

日用品、生鮮食品のリストに基づいて、各ボランティア団体が、働いている難民の希望に応じ、人数分の品物をCBERS(タイのボランティア団体)に請求し、請求〆切日から10～14日後に品物が配られます。ちなみに、生鮮食品は毎月2回、日用品は毎月1回です。

カオイダン・キャンプにおける保育状況

1981年7月現在

プレ・スクール		男	女	計	授業回数	保育者数
IRC	セクション5	33	39	72	2	6
CYR	希望の家	75	92	167	2	7
CYR	セクション23	79	63	142	2	8
YWAM	デイケアセンター	27	20	47	2	7
CONCERN	セクション3	66	54	120	2	5
CONCERN	セクション7	106	96	202	2	6
CRS	ホスピタルB	98	122	220	2	12
	計	454	486	970		51

IRC：INTER NATIONAL RESCUE. COMMITEE
CYR：CARING FOR YOUNG REFUGEES
YWAM：YOUTH WITH A MISSION
CRS：CATHOLIC RELIEF SERVICES

IRC、YWAM、CRSの保育施設には希望の家で養成した保母を派遣しています。

保育センター"希望の家"

7月29日、セクション23の洋裁教室が開始されました。定員90名をはるかに越える150人以上の希望者が殺到し、その中で、未亡人、障害者を優先し、説明会に出席した66名を加えて90名でスタートしました。

1.目的　(1)母親と子供の生活の場を作る。(お互いが近くにいることにより安心して活動ができる。
　　(2)日常生活に必要な基礎的な洋裁の技術を身につける。
　　(3)技術の向上につとめる。
2.人数　午前(8：00～11：00)45名
　　午後(1：30～ 4：00)45名
3.期間　4ヶ月　7月29日～11月28日
4.スタッフ　責任者　サン・ベット

洋　裁　タラン・ヘン・ドウアン
　　シアック・チェン・フン
刺　繍　ロエン・アン

5.制作予定　最初　洋裁の道具を入れるケースを作り、ちどりぐけ、ボタンホールなどの基礎練習の後、洋裁、手芸（刺繍、編物）の2グループに分け、ブラウス、シャツなどの作品に取り組みます。1人6着の予定。

現地報告より

現地入りしてはや一週間になろうとしています。初めてカオイダンキャンプに足を踏み入れて思ったことは、とにかく広いということです。青い空と赤茶の土、近くに迫るカオイダン山、この中に今自分は蟻のように小さく感じます。まごまごしているとつぶされてしまいそうな……。

キャンプ内の事は一週間たってもほんの少ししかわかりませんが、プレスクールの事について書きます。まず子供たちの輝く瞳に感動しました。それぞれが自分の遊びを見つけ、それに熱中しているのです。日本でよく目にする色鮮やかなチャラチャラした遊具などなんと価値の低いつまらないものかと感じさせられました。愛情のこもった手作りの遊具はとてもあたたかく感じました。3才児が針をうまく使って紙に毛糸で縫いとりをしているのは驚きました。最後の糸の始末までもきちんとしているのです。ひとつ不思議に思った事があります。前記のように3才位の子や年長に至る子供たちが入り乱れ、ごちゃごちゃした所での作業でも怪我をしないのです。私の勤めていた保育園でもやっていましたが、縫いとりをするコーナーはテーブルを多くし、となりの園児とぶつかり合わないよう間をあけ、またきちんと針の進む先を見てやるようにその都度声をかけていたのです。この他にもいろいろな発見がありました。

※希望の家の教室は、1部屋40～48㎡で3～5才児が20～30名、各々絵を描いたり、本を読んだり、切り抜きをしたりしている。

＜7月19日付長峰光恵の報告より＞

いよいよ正念場のCYR活動

理事　佐藤　恒夫

8月2日から4日間、カオイダンにある「希望の家」を中心に現地スタッフと行動を共にしました。非常に短い期間でしたが、それなりに強く印象に残ったことがあります。それは、CYRが発足当初から目標にしてきた「カンボジア人自身の手による幼児保育」という活動が、今、しっかりと根を下ろし始めたということでした。

CYRのメンバーがその場にいなくても、「希望の家」全体の日課は、クメールの人々の手によって、てきぱきと進行していきます。子ども達が遊んだり、手作業したりする教室、はた織、洋裁、刺繍、それから、教室の教具、机や戸棚を作っている木工室……。それぞれの部屋毎に保母や責任者の下で、整然としかも、楽しそうな活気にあふれる動きがくりひろげられています。

昼休み前の約1時間、トレーニング中の保母が先輩の保母達から保育の理論や教材の使い方を教わったり意見交換をします。一見、どこの国の保育実習コースでもみられるような風景に見えます。しかし、今ここで熱心に教えている「先生」方が、実は半年前まで「保育のイロハ」も知らなかった人達だといわれたら、多くの人は信じられないという顔をするでしょう。この「先生」方は、CYRのスタッフの助言と援助を受けながら、最近、自分達の手で「保育の手引（クメール語）」を完成させました。彼らの手でそこまでやれるようになったのなら、CYRの現地スタッフの存在意義がなくなってしまったといえば、それは大きな間違いをおかすことになります。カオイダンのような難民キャンプを囲む周囲の厳しい環境を忘れたことから生ずる楽観的な誤まりです。国境紛争こそ小康状態とはいえ、国境のあちら側は今なお戦争です。いや国境のこちら側もやはり準戦争なのです。私の滞在中も、タイの村へキャンプ内の闇市で売る品物を買うため（生きるための手段として）キャンプを囲む有刺鉄線を越えて行こうとする人にむけて発砲させるタイ兵の機関銃の音が、人々の顔をひきつらせる瞬間に遭遇しました。

このキャンプは、あくまでも戦場の収容所です。CYRやその他の救援組織も、ここでは世界の良心と世論を代表する「監視者」の役割を担わされています。極言すれば、ボランティアは、ただキャンプの中に「いる」だけでその役割の大半を果しているとさえいえます。彼らがのびのびと展開する自主的な社会活動が、実はこれらのボランティア組織の作り出した目に見えない「シェルター（待避壕）」の中だからこそ可能だということを……。

このような異常な事態が収まらないかぎり、そしてこの人達が無事に帰国する日まで、CYRはここに踏み止まるべきではないか ― 私の頭の隅でそんな考えが次第に膨れあがっていきました。

CYR現地活動

4／ 6　白石雅彦　アランヤプラテート到着
4／ 9　カオイダンキャンプ　人口調査
4／11　織物用　教室の建築開始（希望の家）
4／24　桑村桂子　アランヤプラテート到着
4／28　秋沢ヒロ　ビザ更新のため、ペナン島へ
5／ 5　立石三月子　アランヤプラテート到着
5／ 6　洋裁教室　セクション21　第1期終了
5／ 7　洋裁教室　セクション21　第2期開始
　　セクション23　洋裁用教室の建築開始
5／ 8　UNHCR教育会議（バンコク）
5／ 9　UNHCR　プレスクール会議（カンブット）

6／ 7　洋裁用の教室完成　セクション23
　　須田とみ子　ビザ更新のため、ペナン島へ
6／ 8　UNHCR教育会議（バンコク）
6／22　手芸教室（刺しゅう、編物等）開始
　　希望の家　午後の保育開始
6／30　バンコク宿舎　移転
7／12　長峰光恵　アランヤプラテート到着
7／13　UNHCR教育会議（バンコク）
7／29　洋裁教室　セクション23　開始

8／ 1　グッズシステム開始
8／10　河村好美　アランヤプラテート到着
　　UNHCR教育会議（バンコク）
8／17　第1回カオイダン　プレスクール会議
9／ 5　洋裁教室　セクション21　第2期終了予定
9／ 7　洋裁教室　セクション21　第3期開始予定
10／21　手芸教室　第1期終了

写真展

写真展「カンボジア ── 幼い難民とともに」は東京の二つの会場で開かれたあと、大阪、神戸、姫路、広島、そして岩手県宮古市と全国各地で開催されました。それぞれの会場で、会員や会員外のたくさんの方々に、準備、受付などのご協力を得、お借りした会場の関係者の方々、各開催地の報道機関の方々、そして写真展を熱心にごらんくださったみなさまからも、暖かいはげましや今後の会の活動のための建設的な助言をいただきました。幼い難民たちのあのあどけない笑顔や姿はキャンプの人々の声と心を確実に見る人に伝え、同時に見る人々の間にもすばらしい出合いと心のふれあいを作ってくれました。これからも1人でも多くの人に写真展を見ていただき、一緒に救援活動の輪を広げていけたらと願っています。

CYR国内活動

4／ 1−7　CYR写真展（淀屋橋サンサロン）
4／16　森定ならみ　松本徳子　帰国
4／17　インドシナ難民救援連絡会緊急会議
4／30−5／12　神戸写真展（神戸青少年会館）

5／ 3　100万冊古本フェア参加（NHKホール前）
5／ 4　いいぎり　ゆき　帰国
5／10　第3回バザー
　　第3回理事会
5／16　インドシナ難民救援連絡会会議
5／29−6／7　CYR写真展（姫路カトリック教会）
5／29　事務局会議
5／30　いいぎり　ゆき　姫路定住センター訪問

6／ 1−6／30　写真展（宮古市立図書館）
6／14　カンボジア難民を考える集い
　　（宮古市立図書館）
6／26　白石雅彦、桑村桂子　帰国

7／11−17　CYR写真展（広島YMCA）
7／11　インドシナ難民救援連絡会会議
7／17　事務局会議
7／18　関西地区現地報告会
　　於　京都ドイツ文化センター
7／26　第4回理事会（関西支部を承認）
7／27　秋沢ヒロ　帰国

8／ 8　インドシナ難民救援連絡会会議
8／25　横須賀北ロータリークラブ講演
8／28　事務局会議

9／ 4　須田とみ子　帰国
9／19　インドシナ難民救援連絡会会議
10／ 1−15　CYR写真展（横浜YWCA）
10／18　第4回バザー

写真展御意見ノートより

難民のようす（キャンプ内）がよくわかった。しかし、なぜ難民が発生したかが、その原因を追求せずに活動を続けても根本的な解決にならない。その問題提議をしてほしかった。学生

（原文のまま　敬称略）

第3回バザー盛況に終る

去る5月10日幼い難民を考える会第3回バザーが、聖心インターナショナルスクール駐車場で行われました。会の内外から日用品、古本、衣類、タンス、ベッド、手作りケーキなど、たくさんの品物をお寄せいただき、会員50名ほどのお手伝いと200名にものぼるお客様におこしいただき、皆様のご協力で1,202,984円の純益をあげることができました。当日の収益は、会の活動資金（現地保育活動、母親教育、及び国内活動、子どもの本出版など）として、使わせていただいております。ありがとうございました。尚次回バザーは、10月18日（日曜日）を予定しております。皆様のご家庭で不要になったもの、衣類、日用品、などございましたら、CYR事務局までご連絡ください。

第4回「幼い難民を考える会」バザーご案内

日時：1981年10月18日(日)午前10時—午後3時
場所：聖心インターナショナルスクール駐車場
問合：渋谷区広尾4−3−1　TEL 499−1226

バザー用品、お手伝い募集！

CYR事務局では、数多くの皆様に当局のお手伝いと、御協力をお願い致します。

—会計報告—

（1981年4月1日〜7月30日）

	項目	収入	支出	残高
国内関係	前月より繰越	880,720円		
	会費(含支援金)	902,840円		
	賛助会費	543,516円		
	事務所経費		1,725,269円	
	計	2,327,076円	1,725,269円	601,807円
	寄付前月より繰越	6,442,707円		
	寄付・募金	2,216,950円		
	現地へ送金		2,250,000円	
	国内活動費		2,624,866円	
	計	8,659,657円	4,874,866円	3,784,791円
	バザー其他収入	2,040,680円	150,880円	1,889,800円
現地関係	前月より繰越	423,874.39		
	国内から送金	209,531.25		
	補助金	121,281.00		
	寄付・其他	105,248.33		
	現地活動費		425,896.85	
	計	859,934.97	425,896.85	434,038.12

＜単位・国内—円、現地—バーツ＞

賛助会員制実施なる

「幼い難民を考える会」も会員のみなさまをはじめ、ご支援いただいたみなさまがたのお陰で、発足1年半を迎えました。難民キャンプの活動は、保育施設の運営を中心に幅広い職業訓練も活発に行われております。しかし、それを支える国内事務局では、事務経常費、ことに人件費（4月より事務員1名常駐）の面で現在の会費収入では、まかないきれないのが実情です。そのため、定期的会費納入の義務のない、賛助会員の制度をおしすすめ、当会の活動を支えていただいています。すでに30名余の皆様に、賛助会員申し込みをいただいております。皆さまのお力添えを切にお願い致します。

4月より8月までの会員、賛助会員数

会員	416名	
賛助会員	45名	計 461名
寄付者	383名	

資金援助のお願い

幼い難民を考える会では、保育施設の開設運営保育者の養成、ワークショップの運営などの活動のための資金を募っています。本年9月から来年3月までの目標額は2,130万円です。

（東京都募金許可番号　56第88号）

また、UNHCRが、タイにあるベトナム、ラオス、カンボジアの各キャンプの子ども達にインタヴューをしたものをもとに、子どもの本を出版予定ですが費用が不足しています。

1人1人のわずかな額でも、多勢の人が集まれば、大きな額となります。　皆様のご理解と御支援をお願い致します。

尚、郵便料金の値上りと事務局の人手不足とから、銀行振込、郵便振替のご送金は、勝手ながら振込票をもって、領収書とかえさせていただきますので、ご了承下さい。

編集担当より

CYRニュースが経費などの関係から、このような形式になりました。これからも、タイの難民キャンプの現状、難民の声、現地活動報告、国内定住状況、会員の皆様の意見交換の場など、できるだけ中味を充実させていきたいと思います。
是非、皆様のご意見、ご感想をお寄せください。
お待ちしています。

担当　秋沢、関口、川畑、森定